

第7号

かたつむり21

2004年4月18日 発行

4月現在会員数

個人： 74名
法人： 2団体

題字 杉野 雅子

◎事務局の現状と課題 事務局長 松木彰造

2001年（平成13年）4月21日 大阪肢体不自由児サービスグループ（SG）35周年記念行事を機に設立した「SG後援会『かたつむり21』」は、今年で4年目を迎えた。SG活動の拠点となる施設の開設・管理、SGへの資金援助、SG行事への参加等、多方面にわたる後方支援を実践してきた。特に、設立当初から、最重要課題として取り組んできた事務所の開設は、大阪婦人ホーム（中津）の平野区移転に伴い、その施設をお借りし、設立1年半後の2002年8月に実現した。

それまでは、多人数が集まるミーティングは公共の施設を有料で借りた。当然の事ながら、日程の調整にも制約があった。SGの物品の保管はレンタルルームを借りた。それらに掛かる経費はSGの運営・活動に大きな負担になった。事務所の設置は定期的に安定した全体ミーティングの開催や物品の管理・維持を容易にした。動きに無駄がなくなった。SGの出費は大幅に軽減された。さらに、事務所には一般の方々や会員から寄せられたご厚意でパソコン・コピー機・机・本棚等が搬入され、事務局機能が飛躍的に高まった。その後のSG活動に幅のある取り組みが出来るようになった。事務所は有効に利用され、SGは少しずつ進化してきた。「SG後援会『かたつむり21』」の後方支援が、ようやく根付き始めた。

しかしながら、当施設の使用は暫定的なものであり、いつまで利用できるか、流動的である。恒久的な拠点施設の確保に向けた取り組み（会員の増大）に、引き続き会員各位のお力をお借りしたい。

◎その他の主な事業

◆SGはサマーキャンプをグループ活動の中心的

な活動と位置づけ、例年総力を挙げて取り組んでいる。今年もキャンプ実施に向けて本格的に動き出した。キャンプリーダーの確保とSGキャンプにふさわしいキャンプ場の情報提供が当会に求められている。
◆「SGとの合同新年会」「オータムキャンプ」を毎年実施している。参加するメンバーが固定化しつつあるが、一般の方々、SG会員、当会員の相互交流の場として有効に機能している。今年も新年会を機に会員が増えた。継続は力、今年度も実施する。

◎お願いとお知らせ

◆事務局を置かせて頂いている婦人ホームへの古着（夏物）等の提供をお願いします。詳しくは杉野雅子（072-792-2488）さんまで。

◆毎月第2土曜日午前10時から、地域の自治会活動の一環として事務所周辺と近くの豊崎南公園の清掃をしています。是非ご参加ご協力下さい。

◆住所・電話・メールアドレスの変更は事務局までお知らせ下さい。

◆会費納入（銀行振込可）

三井住友銀行 難波支店（普通）6672415

SG後援会「かたつむり21」事務局 伊東久実子

SG後援会「かたつむり21」

531-0072 大阪市北区豊崎3丁目11番1号

大阪婦人ホーム 気付

会長：黒川芳朝

事務局長：松木彰造

電話：06-6375-3731（事務局）

072-661-4625（松木）

Eメール：akbkj500@tcn.zaq.ne.jp（松木）

2003年 オータムキャンプに参加して



オータムキャンプの感想 広内逸子

私は、ながーい間、SGの色々な事から今まで離れてて、突然、3年前からキャンプに行くようになって、すごーく懐かしく、また、新鮮でした。

昔に戻ったようで、嬉しくて、楽しく、本当に年を忘れてはしゃいでいました。また、今年も行けるように頑張ります。



子供にかえったキャンパー 人形劇一 根来順子

能勢のお山が恋しくて、広内逸子さんを誘って今回も参加しました。キャンプ場へ向かう車窓から眺める景色は、夏の暑い日差しの中

で過ごした「肢体不自由児キャンプ」で出会った子供たちの顔が次から次へと浮かんできます。

その夏とは違って、しっとりとした紅葉の木々は穏やかな気持ちにしてくれる秋のキャンプもいいですね。特に今年は、人形劇の世界に吸い込まれ、命が宿った人形たちと同じ思いになりました。アマチュアで人形劇をされているとはいえ、ヨーロッパのコンクールで賞をいただくほどの実力には「すばらしい！」の一言でした。

私たちも人形を動かす、小道具係りになって演じました。近頃子供たちの不幸なニュースが後を絶ちませんが、このような人形劇の世界を多くの子たちと共に感動できる環境を大人として守りたいですね。

まさか？人形劇を 向井 研

今回、初めてオータムキャンプに参加させて頂きました。いつも周りに居る子供たちが居ないキャンプは新鮮でもあり、何か物足りないものでもありました。ですが、また全然違った体験が出来ましたので、とても有意義な時間をすごさせて頂きました。

その一つが、人形劇です。まさか、このキャンプで



鑑賞会があるなんて…。また、次の日にシナリオから人形制作までを一貫して制作することになるなんて、思ってもみませんでした。でも、とても面白かったですし、今後子供たちとの活動の際に何らかの形で活かしていきたいと思っています。

とにかく明るい。とにかく元気。 上野 志野

老いも、若きも、幼な子も、みんなみんなエネルギーに満ちている。そんなキャンプに参加させてもらって私達も元気もらいました。

人形劇の講習という事で、1日目の晩には普段私達が公演している人形劇をみてもらったあと、すぐに覚えて全員みごとに上演。

こちらが「この人形劇をしていただきます。」と言うが早いかもしれない皆さん動きだす。あっという間にグループ毎にセリフを覚えて、ああ動こう、こう動こうと相談が始まり、こちらが指導などおこがましい程全員自ら動き考えまとめあげていく。見ている私がわくわくしてくる。

結果はどれもすばらしい。その間、たかだか3時間余り。その後飲んだお酒のおいしかったこと。「これは2日目も楽しみだ。」と思ったらなんのなんの期待以上。それぞれの個性、感性、創造力、みごとにひとつになって青空の下、4つの新しい作品が競い合う。

皆の笑顔がすばらしい。みなさん、どうもありがとう！（人形劇団「なんじゃもんじゃ」）



特別寄稿

障害のある子どもは学校で幸福になるのか

国会参与 幸島 淳（府立和泉養護学校長）



障害のある子どもの教育が、大きく変わろうとしています。

昨年3月に、文部科学省が設置した調査研究協力者会議が、「今後の特別支援教育の在り方について」という報告書を出しました。これを踏まえ、これまでの『特別な場』で指導を行う養護教育から、子ども一人ひとりの教育的ニーズを重視し、適切な『教育的支援』の方向へ転換を図ることについて、国は法改正を予定しているのです。報告書の内容や国の動向等をひとまとめにして、私なりに簡単に要約してみましょう。

①全国調査によって、小・中学校の通常学級に、学習障害や注意欠陥/多動性障害、高機能自閉症等のある子どもが約6.3%存在することが判明し、国は、基本的に知的障害のないこれらの子どもに対する教育が課題であるとしています。まさに『一人ひとり』という、教育の対象概念の変更を課題としています。こうした養護教育の質的な転換に関する議論は、先進諸国で進められている「インクルーシブ・エデュケーション」の動向とも関連のあることでしよう。

②そのため、国は、小・中学校に設置されている養護学級等の制度を改め、全ての子どもが通常学級に在籍することを基本とし必要な時間のみ『特別支援教室（仮称）』で特別の指導を受けることができる制度に転換しようとしています。

③また、国は、今後、盲・聾・養護学校を、そこに在籍する子どもの障害の状況が多様化していること等を踏まえ、障害の種別にとられない『特別支援学校（仮称）』に転換することを基本とするとともに、小・中学校等における障害児の教育に対する支援機能を強化した学校にすることとしています。

④さらに、障害のある子どもに対する生涯にわたる支援の観点を重視し、そのため、広域的・地域的

に、関係機関が連携するシステムを構築することや、学校において中・長期的な『個別の教育支援計画』を策定し、学校内外の連絡調整を担う『特別支援教育コーディネーター』を養成・配置することを必須のものとするとしています。

以上のような変化の時を迎えていますが、行政サイドの財政投資の議論も見逃すことはできませんし、大阪の養護教育が、どのような変革の波を迎えるのか目が離せません。しかし、教育の『現場』にいる者として、このような時代を好機ととらえ、障害のある子どもの将来にわたる幸福を確かなものにしていくために、今からできることは何かを常に問い、教育実践を力強く進めていくことの責務を、肝に銘じたいと思っています。

会員便り

今セラピー活動しています！ 杉野 雅子



こんにちは！能勢の片田舎に住み、我が愛犬とともに月二回、特別養護老人ホーム等を訪問している47歳の主婦です。

ストレス社会を反映してか、世の中セラピーブームで「何とかセラピー」と名のつくものが氾濫しています。ドッグセラピーもその中の一つですが、日頃無口なお年寄りが、無表情な顔に生気が蘇ったり、犬に触れたいがために手足を動かそうとしたり、犬のいわゆる癒しの効果というのは実際想像していた以上のものがあります。

とはいえ、セラピー＝治療は本来医療の範囲のもの。本当の意味の治療も、心をほぐすことも全てセラピー・癒しと名づけ、犬も猫もまるで癒しグッズのように扱われている今の社会に大きく心を痛めています。

動物にも、心も感情も五感もちゃんとあります。中には人に撫でられることがストレスとなる犬もいます。そんな適性を見極めた上でのセラピー犬の養成には時間も労力もかかりますが、お年寄りの喜びにあふれたい笑顔を何よりの報酬とし、今後もコツコツ活動を続けて行きます。

サービスグループだより

SG委員長 種子嶋 公望

かたつむりの先輩方いつもお世話になっております。世の中でバリアフリー化が進み、障害のある子供達の環境も変わりつつありますが、”一人でも多くの子供達を家の外へ！”というSGの理念は、まだまだ続ける価値のある事のように思います。

さてSGでは、今でも中高生を中心とした年4回ほどの遠足等のイベント、そして夏のキャンプを行っております。キャンプについて近年では、施設を利用した琵琶湖での海キャンが中心となっておりますが、今年はやはり自然とのふれあいが大きい究極の家の外、山キャンの復活を目指しております。現在SGでも山キャンを知るグループ員も減りこのままでは、今までの貴重な体験及び経験知識がとぎれてしまいます。現実には、なかなか良いキャンプ場が見つからないなど、色々と課題は山積みですが復活のため是非とも先輩方の力もお貸し下さい。

バリアフリーという言葉の認知度もあがり、ヘルパー制度などの環境も整いつつありますが、学校やヘルパー、家族でもできない”グループキャンプ”というものを、机上ではなく実践出来る経験、知識、力をもつ団体としてがんばりたいとおもいます。今後ともよろしく願いいたします。

ニューヨーク 一人歩きの思い出 岩藤 雅紀



昨年の11月10日から約3週間ほどNYに行ってきました。アパート暮らしでしたのでふ

つうの観光とはちょっと違うアメリカやNYの風景をご報告できたらと書いてみます。

先代の市長の政策によるとかで市内は一見平静（地下鉄も24時間OKですが9.11の影響があるのでしょ）うか、実体はポリス帝国と批判されるようにいたるところに、NY市警がいて見張られているという錯覚さえ起こすような治安状況です。また、よくNYは「何でもあり」と聞きましたが「自由」の歩道を一步ふみはずとそこは弱肉強食のNY。50階以上のpenthouse(高級マンションの1フロア独占)に住む人達の餌食となり、一生マイナリティ暮らしとなる運命となるようで、どんなビジネスでもアートの世界でもNYでは皆、自分のやるべきことに真剣な表情が見えます。「何でもあり」で思い出しましたが毎日乗った地下鉄のホームでよく車椅子の方や自転車、子供を乗せたままの乳母車などを見かけました。大

きな駅にはエレベーターもあるのですが、それが無いところでも結構自由に乗り降りしている様子はむしろ自分が勇気づけられるくらい、本人の意思はもちろん回りの理解があつてのことだと思えます。NYはそれほどバリアフリーの設備は見かけなかったのですが、最後にこれをご覧になった特に若い方にアドバイス、世界No.1の何かを目指すなら一度はNYのその何かを訪ねてみることをお勧めします。大阪弁なまりの英語で十分です。

◆ 第4回通常総会のご案内

- ・と き：平成16年5月23日（日）
午後2時～4時15分
- ・ところ：大阪市中央青年センター
- ・内 容：16年度事業計画・予算案等
- ・特別講演「最近のリハビリテーションの取り組み」
講師：山田貞雄先生（元吹田療育園副園長）
- ・懇親パーティ：当日午後5時30分から
場所：梅田スーパー百番

※詳しくは別紙案内をご覧ください。

編集後記

「かたつむり21」広報7号をお届けします。6号から一部カラーにしましたが、さらに、A3版プリンタの寄付があり、パワーアップしました。皆様の企画、ご意見を待っています。 石谷英治